

1. この冬の気温の推移

*今年の冬は、昨年秋に発生したとされるラニーニャ現象の為、気象庁は寒い冬と日本海側での豪雪を予測し発表しました。過去の例を見ると、2001年以降で冬期にラニーニャ現象が発生していたケースはこれまでに5回あり、今回で6回目となります。その際の冬(12~2月)の平均気温を見ていくと、各地域とも5回のうち4回は平年よりも低い気温でした。

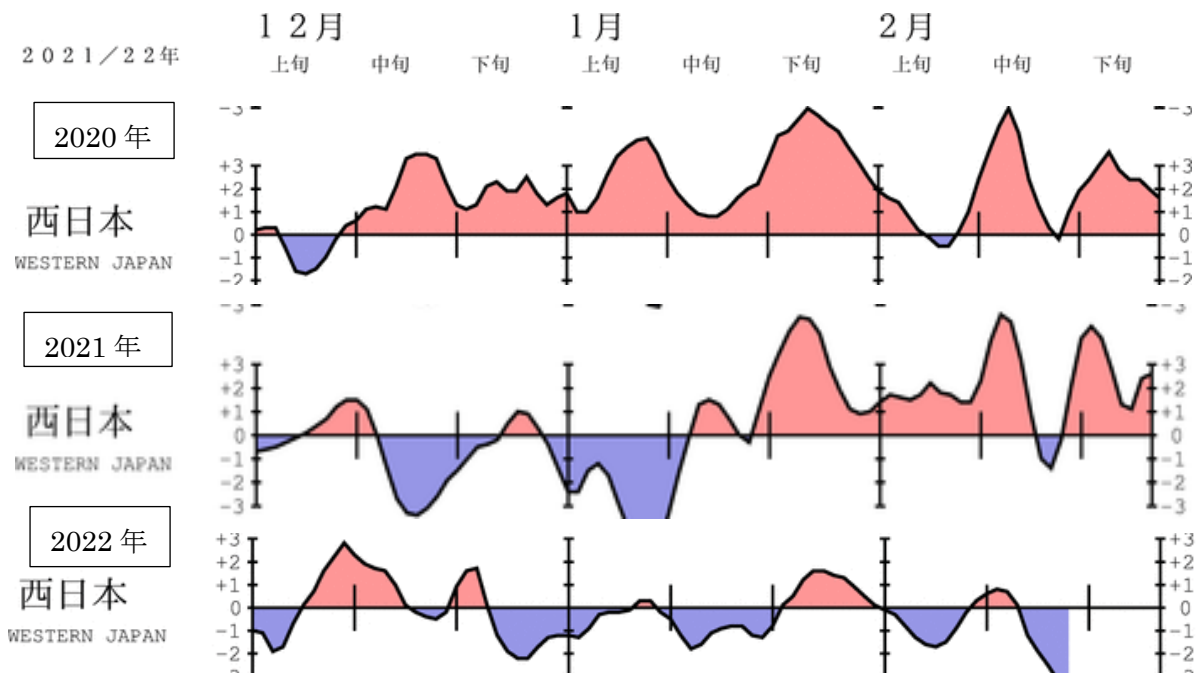
特に2005~06年の冬と、2017~18年の冬は全国的に大きく平年を下回る厳しい寒さとなり、2017~18年の西日本の平均気温は平年に比べて1.5℃も低く、32年ぶりとなる記録的な寒さになりました。今年と同じように秋にラニーニャ現象が発生し、翌年の春にかけて継続しました。

今年も1月には一時的に冬型が弱まって日本付近を低気圧が通過し、太平洋側でも大雪に見舞われました。東京都心でも20cm以上の積雪を観測しています。気温も低く1月下旬は関東の一部で観測開始以来、最も低い気温が記録されました。2月は冬型が再び強まった影響で日本海側の広い範囲で大雪になり、福井県福井市では積雪147cmと37年ぶりの多さとなっています。

*これまでに述べて来ているように、サクラの開花や満開は冬季から初春の気温の高低に大きく左右されます。これまで、このたよりシリーズでは気象庁の発表する平均気温との偏差を用いた図、「前3か月間の気温経過」(地域平均気温平年差の5日移動平均時系列)を加工して用いてきている。地域の大まかな気温の傾向を平年と比較して見るには最も分かり易いと考えたからです。

(昨年から、各気象会社もこの方式を用いて解析・説明するようになって来ています。)

*例によって2020年、2021年、今年の冬の3年間の西日本の気温経過図を挙げておきます。



・2020年度は記録的な暖冬、2021年・昨年は12月中旬から1月中にかけて平年値を大幅に下回る日もありましたが、1月下旬以降は暖かい日が続き、3月も暖かい日となりました。今年には12月下旬以降1月も2月も寒い日が続いて来ている状況です。この、3年間の冬期の気温の傾向がサクラの開花や満開、その後の生き様にどのような影響を与えるのか、過去2年間の知見に加え考察し、まとめて行きたいと思っています。

・2022年の冬季気温傾向から各気象会社が出す今年の桜の開花予報も変わってきています。

2. 今年 2022 年のサクラ（ソメイヨシノ）の開花予想日

最新の開花情報 2月17日、ウエザオニュース社（第4回目）の発表

今年の冬は、11月から12月前半まではなかなか寒気が流れ込みませんでしたが、12月後半と1月は寒くなっています。このため、休眠打破はほぼ平年並みと考えられます。

この先3月にかけての気温は、平年並みかやや高めと予想されます。休眠打破も花芽の成長に必要な気温も、どちらも平年並みに近いとみられるため、開花も平年並みかやや早めとなりそうです。北海道は気温が高い予想で、早い開花が見込まれます。

近畿各地の開花日・満開日の予想		
地域	開花日	満開日
彦根	3月30日	4月6日
京都	3月26日	4月2日
大阪	3月25日	4月1日
神戸	3月25日	4月3日
奈良	3月27日	4月2日
和歌山	3月23日	3月30日

*一方、日本気象株式会社も、2月17日に2022年第4回桜の開花・満開予想を発表しました。

北日本では平年並みか平年より早め、東日本・西日本では平年並みの開花に。

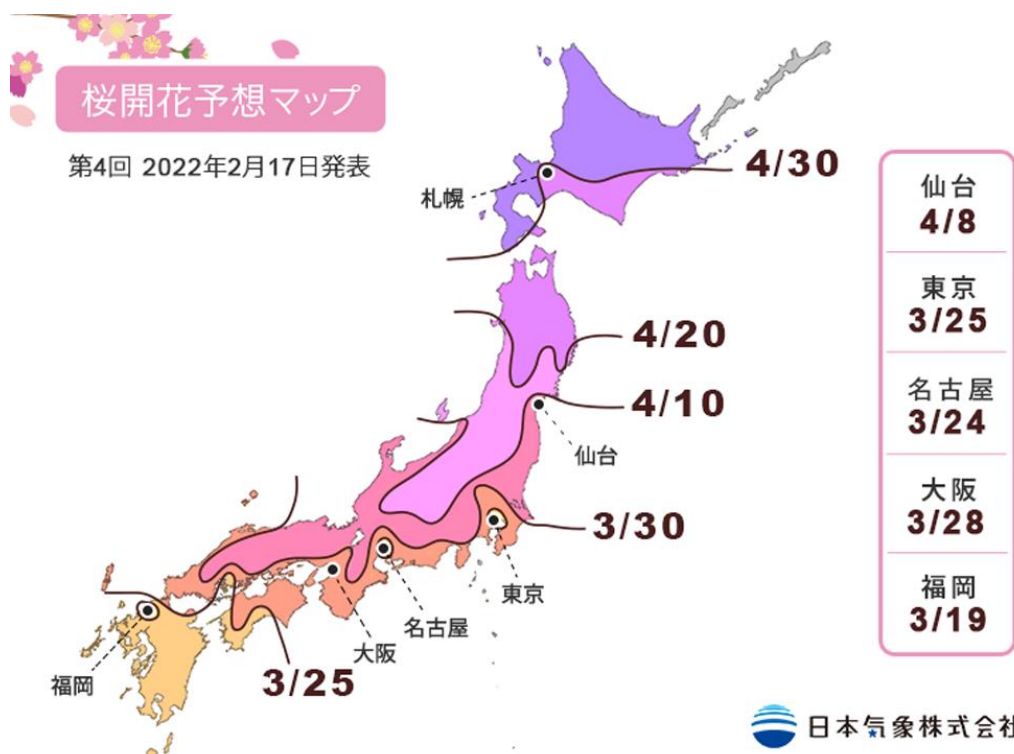
・今シーズンは全国的に休眠打破の時期は平年並みか平年よりやや早めでした。休眠打破後は、北日本では平年よりやや高めの気温が予想されるため、平年並みか平年より早めの開花となり、東日本・西日本では平年よりやや低めの気温が予想されるため、平年並みの開花となるでしょう。

福岡で3月19日頃に開花がスタートし、続いて四国・九州地方の地点でも開花し始める予想となっています。前回の発表と比べて全国的に予想日が1~3日程度早くなっています。これは、3月前半と4月の気温が高くなる予想に変わったためです。

[東日本・西日本]

10月は平年より高め、11月から12月にかけては平年並み、1月は東日本では平年より低め、西日本では平年並みの気温でした。休眠打破の時期は概ね平年並みでしたが、九州では秋以降気温が平年よりもやや低めに推移したため、休眠打破は平年より数日程度早まりました。2月は平年より低め、3月は平年並みの気温が予想されています。

開花時期は、平年並みでしょう。



[北日本]

10月は平年並み、11月は平年よりかなり高め、12月は平年より高め、1月は平年並みの気温でした。11月から12月にかけて気温が高かったものの休眠からの覚醒には十分な寒さがあり、休眠打破の時期は概ね平年並みか

数日遅れた程度の見込みです。2月は平年並み、3月から4月にかけては平年より高めの気温が予想されています。開花時期は、平年並みか平年より早いでしょう。

3. 最近の開花情報

3-1. 奄美・沖縄地区におけるサクラ（ヒカンザクラ）の開花・満開情報

ご承知のように、気象庁は1954年以降続けて来ていた「生物季節観測」の種数を大幅に縮小し、6種・9項目に絞りました。その中で、幸運にも「サクラ」は、開花日、満開日の観測が引き続き続けられることになりました。この「サクラ」の観測品種・標準木は奄美・沖縄地区では

「ヒカンザクラ」で名瀬、那覇、宮古島、石垣島、南大東島の5ヶ所となっています。因みに残る45都府県の標準桜は「ソメイヨシノ」ですが、広い北海道では、函館、室蘭、札幌は「ソメイヨシノ」、帯広、旭川、稚内、釧路、網走の5ヶ所は「エゾヤマザクラ」が標準種とされています。

・既報のように、昨年3月に「平年値」が1991~2020年の30年平均値に改定され、5月から適用されるようになって来ています。下記に、今年の「ヒカンザクラ」の開花日、満開日と新しい平年日（青色）、昨年の観測値と並べまとめておきます。

地域	開花日			満開日		
	今年	平年	昨年	今年	平年	昨年
名瀬（奄美）	1月18日	1月19日	1月25日	1月31日	1月30日	2月1日
沖縄	1月11日	1月18日	1月4日	2月1日	2月4日	2月1日
宮古島	1月19日	1月16日	1月16日	2月8日	2月5日	2月10日
石垣島	1月27日	1月16日	1月27日	2月22日	2月9日	2月8日
南大東島	1月28日	1月20日	1月20日	2月10日	2月5日	—

（ 宮古島では2019、2020年、石垣島では2020年、南大東島では2020、2021年満開が記録されていません。開花はしたが満開には至らなかったのです。 ）

・「ヒカンザクラ（かんひざくら）」に関しては、2020年のサクラ日より1、2などで詳述していますが、台湾と中国南部に分布し、台湾では主に「山櫻花」と呼ばれ、海拔500-2200mの山地に自生。

日本では沖縄県の石垣島に国の天然記念物に指定された「荒川の寒緋桜自生地」が存在し、カンヒザクラも日本の基本野生種11種のうちの1種とされる場合もありますが、これには疑義がある。理由として、台湾により近い石垣島の西方の西表島などに自生地はなく、石垣島の自生地とされる場所も標高200mほどの自然度が低い二次林が多く、個体数が数百個体と少ないことが上げられています。そのためカンヒザクラが台湾から人為的に持ち込まれた後に野生化した可能性が指摘されていますが、結論には至っていません。

・このヒカンザクラの開花・満開に関しては「台湾の自生地」、平地には自生がみられないことから、開花時の気温ではなく、休眠打破の気温・期間が支配因子と記述した。近年は、開花はするが、沖縄以南では満開には至らない年が出て来ている。これは、晩秋～初冬？の気温如何で一部の「冬芽」は休眠打破されるが打破されない「芽」があることを意味している。恐らく、「地球温暖化」の影響が顕著に出て来ている例であろう。

なお、平年値で比較すると、開花から満開（80%の蕾が開く：気象庁）までの日数は奄美で11日間、沖縄で17日間、石垣島では24日間と南へ行くほど広がっていることが分かる。通常、開花から満開まで

の日数はその期間の気温が高いほど短くなるのが普通である。具体的なデータを挙げるまでもなく、この間の気温は石垣・沖縄・奄美の順であろう。

このことも、上述の「休眠打破」は一斉におこるのではなく、晩秋～初冬？の気温如何で幅をもって行われていることを示唆している事実であろう。

なお、このヒカンザクラは、奄美・沖縄地区だけでなく、国内でも関東以西では公園や庭園にも植栽されている。2月14日の金曜日、科員のHさんから「今朝庭のカンヒザクラが1輪咲いた」との情報を頂いた。私も、芦屋川河畔の公園の植樹をウオッチングしているが、2月22日現在、右の写真のように蕾が覗いている状態です。一昨年の開花は2月10日、昨年の開花日は2月21日でしたが、この状態から開花までは5.6日掛かったように思います。期間の気温差が顕著に出て来ているようです。



(本種の開花に至る経過に関しては昨年度の2021 サクラだより3に映像紹介していますので参照下さい。)

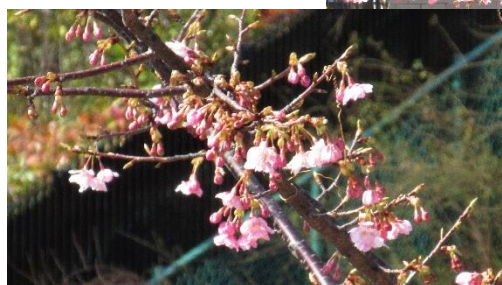
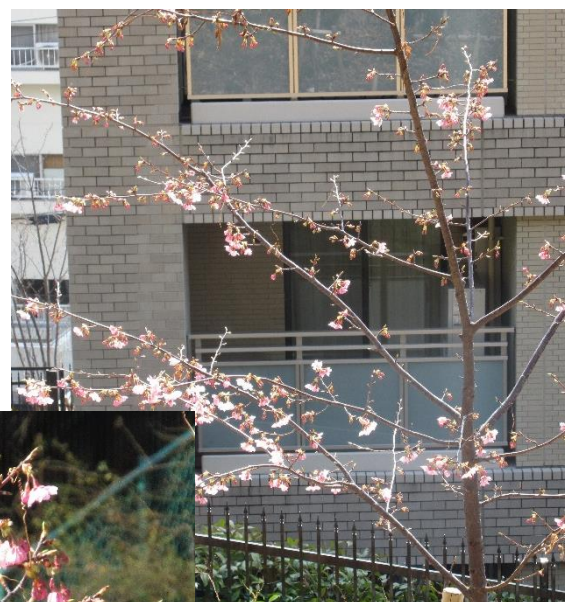
3-2. カワズザクラ (河津桜)

昨年のサクラだより2で、日本の早咲きザクラの例として、「河津桜」と「あたま桜」を「図鑑」式で紹介した。この内、「河津桜」は各地の公園や河川堤あるいは庭木として植えられており、皆さまからも万博公園、大仙公園、長居公園、京都植物園、神戸**、宝塚・・など多くの情報が寄せられている。

この桜は名の通り、静岡県・河津町で偶然発見され命名された経緯があり、河津町では毎年観光協会主催の「さくらまつり」が開催されて来て現地での開花状況などは、協会のHPに詳しく公開されて来ていた。今年はコロナの影響で「中止」となり正式記録は見られない。

ただし、「[河津桜開花状況及びアクセス](#)」というサイトでは河津町の各所の開花状況が毎日写真付きで紹介されている。これによると、河津町の原木は2月3日に開花し、21日に満開、有名な河津川並木は2月15日に開花、23日4分咲き、他所も11日ごろ開花し現在4分咲きと報じられ、昨年よりかなり遅い開花が伝えられている。

*既に、これまでの「サクラだより」の中でも記述して来ているように、昨年から近くの芦屋市の東山公園と宮川沿いのマンションの庭に植えられている2ヶ所でウオッチングして来ています。この内、東山公園には、数度に分け30本ほどが植栽されています。これ等の内、南斜面に最近植えられた若木10本ほどは「芽」の展開が早いと前報で書いたように思います。これ等の若木の内、2月の10日には3本の樹で1～2輪の開花が見られ、開花は2月11日であったと思われませんが若木ですので、見栄えはしませんが20日には1～2分咲きの状況になっていました。



一方、同所で昨年 2 月 11 日に開花の見られた成木では、2 月の 20 日に右の写真の他、2、3ヶ所で開花が見られたので「開花宣言」です。
・同じく、観察を続けて来ている宮川沿いの成木では、右下の写真のように 22 日には、冬芽



が開いて蕾が見られました。この樹の母種であるヒカンザクラ特徴を受け継ぎ蕾は下向きにぶら下がって来ています。2、3 日後には開花するのではないかと思います。(23 日には開花しませんでした。) こちらは、昨年は 2 月 14 日が開花日と記録されており、今年は 10 日ほども遅れそうです。植物は正直ですね。



*なお、この桜に次いで「シナミザクラ」の「芽」も膨らんで来ているように思われます。この桜も近くに 3ヶ所植えられており観察して行こうと思っています。

❖今年も、ソメイヨシノの「休眠打破」の状況を見る目的で、枝を採取して来て花瓶に生けての室温放置テストを行って来ています。2 月 5 日採取の枝で、2 月 23 日に写真のように開花が見られました。他に 3 個ほど (20 個の内)、芽も膨らんで来ています。開花したとは言え、一つの芽から 1 輪、しかも柄が見られません。今年は、夜間の冷え込みが強く夜間の室温も低目と考えられますが、これまでよりは短期間で開花した・・・休眠打破の開始時期が早かったのではと思っています。 以上

